

# 株式会社フコク 第69回定時株主総会

## 事業報告

### ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った  
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ  
今までに無い価値を提案していきます



Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

ただいまより、第69期事業報告についてご報告いたします。

## 当事業年度の状況

### 事業に影響を及ぼした要因

**I.**  
**新型コロナ  
 ウイルス感染症の  
 継続**



**II.**  
**半導体供給不足に  
 による減産**



**III.**  
**原材料費、  
 輸送費、燃料費  
 上昇**

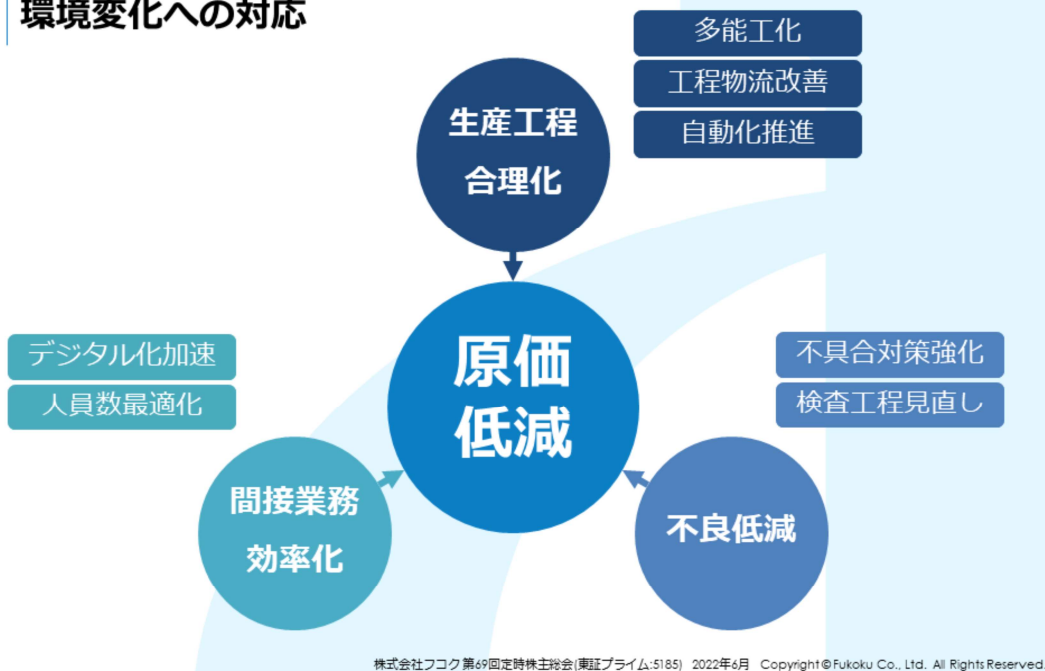


**企業経営に対する圧迫要因が発生**

株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

当期の事業環境につきましては、  
 新型コロナウイルス感染症の継続や、半導体供給不足による車両減産、  
 原材料費や輸送費、燃料費等の上昇など様々な外部環境の影響を  
 受けたことで、企業経営に対する収益面での圧迫要因が多数発生いたしました。

環境変化への対応



こうした環境下におきましても、株式会社フコクは昨年度に引き続き、工場などの生産現場における合理化や自動化を推進するとともに、間接部門におきましてもデジタル化や業務の効率化を進めてまいりました。

### 生産工程合理化

#### ■ 検査の自動化



#### ■ 生産現場のDX化推進



附帯作業の自動化、人は作業に専念  
→ 働きやすい現場環境

株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

その一例といたしまして、  
工場におきましては、これまで人が検査していた工程を自動化したり、  
書類での管理をDXによってシステム化に置き換える等、  
人が作業に専念出来、働きやすい現場環境を実現しております。

## 当事業年度の状況

### 生産工程合理化

#### ■ 新製品現場も自動化



作業手順書、ロット記入のデジタル化  
→ 更なる作業効率を実現

株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

また、今年度より新たに生産を開始した生産現場におきましても、生産ライン開始当初から 作業手順書やロット記入をデジタル化することで作業効率の更なる向上を進めております。

## 品質向上

### 取引先からの表彰



国内外から表彰を受賞  
→ 生産合理化を品質向上に繋げる

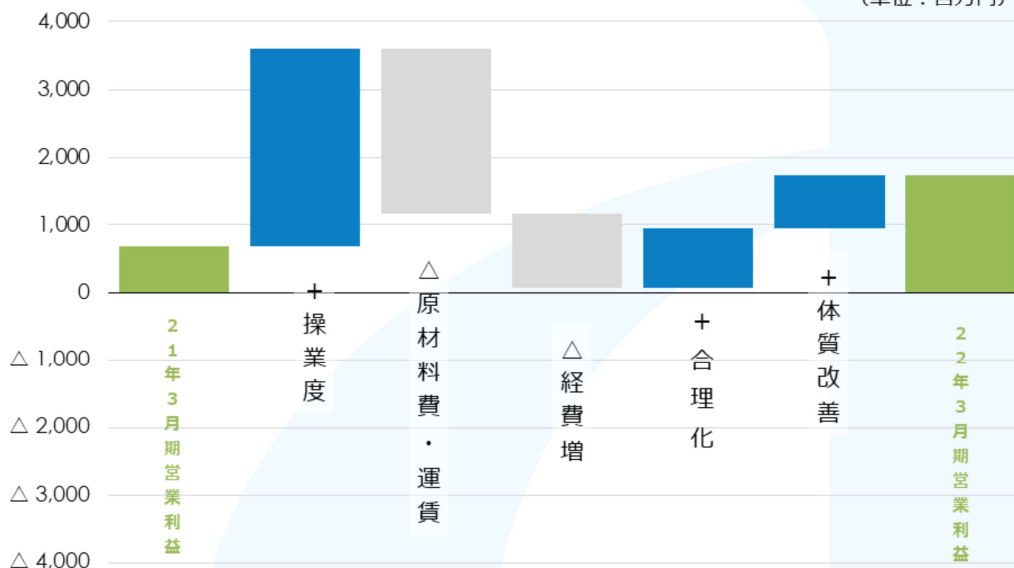
株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

こうした生産工程の合理化を進める一方、モノづくりにおける品質向上に更に力を割いて取り組めたことで、国内外の取引先から品質に関する表彰を数多く頂戴いたしました。その数は2020年度比較で3割増となっております。

## 当事業年度の状況

### 2022年3月期\_連結営業利益 (差異：前年比)

(単位：百万円)



株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

これらのことから、2022年3月期の連結営業利益はご覧の通りになります。

売上増に伴う操業度益が28億円ほどありましたが、  
 原材料費や輸送費高騰などの環境悪化に加えて、人件費増などによる  
 経費増があり、操業度益を超える水準にまで利益を押し下げましたが、  
 合理化・体質改善努力によりカバーし、増益を確保することができました。

## 財産及び損益の状況

(単位：百万円)

	第66期 (2019年3月期)	第67期 (2020年3月期)	第68期 (2021年3月期)	第69期 (2022年3月期)
売上高	77,949	74,839	63,214	71,504
経常利益	2,107	979	1,435	2,522
親会社株主に帰属 する当期純利益 または純損失	△2,690	309	1,254	2,084
<b>1株当たり 当期純利益 または純損失(円)</b>	<b>△162.45</b>	<b>18.67</b>	<b>75.69</b>	<b>127.24</b>
総資産	67,584	65,246	63,817	65,039
純資産	32,036	31,941	32,321	34,377

株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

第69期の連結業績はご覧の通りです。

特に、画面中段の1株当たり当期純利益は、127.24円と昨年に引き続き大きく上昇しています。



## 株主還元

### 株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

連結配当性向 **30%** を目安とした安定配当を継続

1株当たり年間 **20円を下限**

※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

### 1株当たり配当金（円）



株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

配当政策につきましては、連結配当性向30%を目安に、安定配当を継続することを基本方針としております。

2021年度の1株当たり配当金は49円となり、中期経営計画策定時予想より14円増配となりました。

## 2023年3月期 業績予想

### 業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2022年	2023年	前年増減額	前年増減率
	3月期	3月期		
	実績	予想		
売上高	71,504	<b>77,000</b>	+5,496	+7.6%
営業利益 (売上高対営業利益率)	1,749 (2.4%)	<b>3,700</b> <b>(4.8%)</b>	+1,951 (+2.4pp)	+111.5%
経常利益 (売上高対経常利益率)	2,522 (3.5%)	<b>3,800</b> <b>(4.9%)</b>	+1,278 (+1.4pp)	+50.6%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,084 (2.9%)	<b>2,700</b> <b>(3.5%)</b>	+616 (+0.6pp)	+29.5%

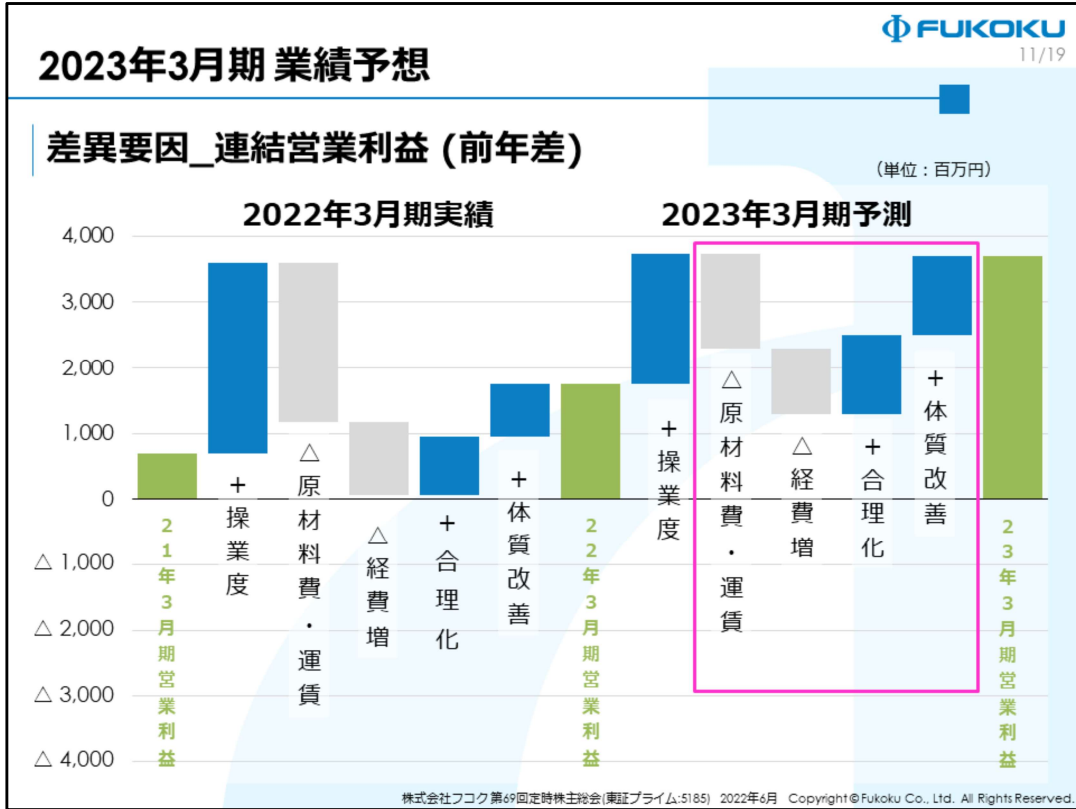
※pp=パーセンテージポイント

**売上回復に加え、体質改善の効果により増益を見込む**

株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に、2023年3月期の業績予想につきましてご説明いたします。

外部環境がなお不透明な中ではありますが、新製品の投入や受注の回復を見込み、売上高は770億円、前年比7%増となる予想です。営業利益はほぼ倍増の37億円、経常利益は50%増の38億円、当期純利益は30%増の27億円を見込んでおります。

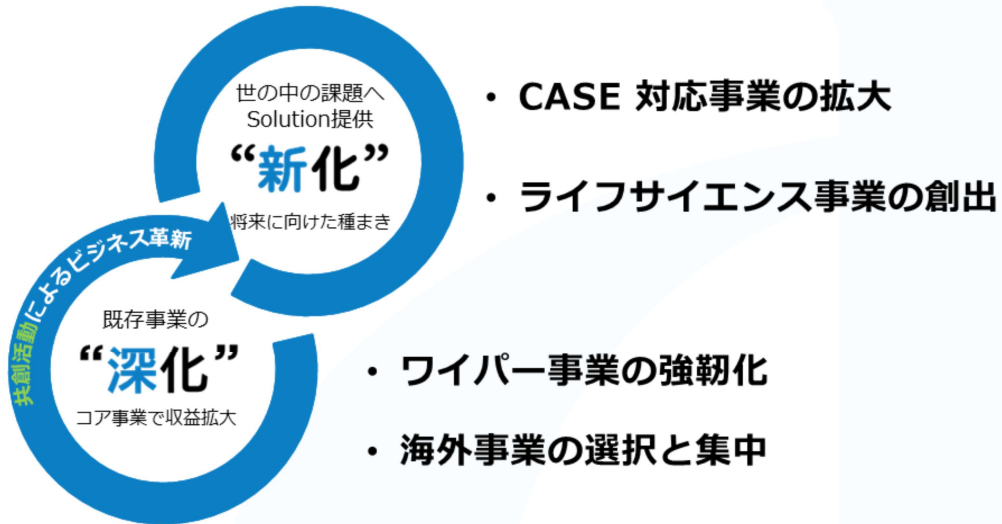


対前年比、営業利益増減要因は、ご覧の通りになります。

原材料費や運賃高騰、人件費を中心とした経費増はあるものの、採算改善の積み増しや変動対応力の更なる強化の取り組みを反映し、操業度益を留保できる経営をしてまいります。

## 中期経営計画 (2022年3月期～2024年3月期)

### “深化”と“新化” 全体像



株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

ここからは、昨年2月に公表しました中期経営計画の進捗についてご説明させていただきます。

中期経営計画の計画骨子としましては、既存事業を深掘りして更なる収益拡大をはかると同時に、将来に渡って世の中の課題にソリューションを提供するための種まきを行います。それらを、『深化』と『新化』という言葉で表現いたしました。

Φ FUKOKU 13/19

## 中期経営計画 (2022年3月期～2024年3月期)

### “深化” …ワイパー事業の強靱化

**ワイパー仮想設計ソフト第一弾  
FWIP-SIM-P※の開発完了**

※FUKOKU Wiper Simulator for Pressure

CAE等を用いたワイパー仮想設計で  
ソリューションを提供するシステム

**大型恒温槽導入  
ワイパー実験棟増設完了**

従来お客様に依頼していた実車・実機  
レベルでの評価が自社内で可能に

スピード設計 → 仮想設計 → 仮想評価 → 金型製作 → 実機評価 → 完了

断面形状設計    パーティブラ形状設計    圧力分布    ガラス形状評価    水膜厚測定

大型恒温槽導入      ワイパー実験棟の増設

**最適な部品形状・材質を他社よりも速く提供が可能に  
→ 更なる拡販の加速**

株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

まず、既存事業の深化については、フコクのコア事業である「ワイパ事業」の強靱化を進めております。

これまで、拭きの良いワイパを開発するためには、従来、試作・評価の繰り返しを必要としてきました。

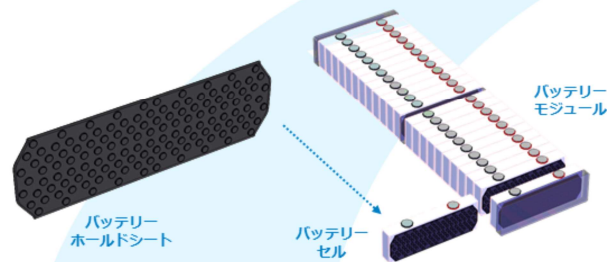
EVの時代において開発期間短縮は最優先課題であり、その要求に応えるため、仮想設計による最適解を提供できるシミュレーションシステムを開発完了させることが急務となっており、その第1弾を完成させることができました。

また、画面右側にありますように、大型の恒温槽も導入し、従来お客様にお願いしていた実車・実機レベルでの評価が自社内で可能となりました。これにより最適な部品形状・材質を他社よりも速く提供することが出来るようになり、更なる拡販の加速が可能になるものと確信しております。

“新化” … CASE 対応事業の拡大

バッテリーホールドシートが  
TOYOTA「bZ4X」に採用

TOYOTA初のバッテリー電気自動車(BEV)である「bZ4X」に採用  
セルの膨張収縮を最適な力で拘束することでバッテリーの性能向上に貢献



次世代電気自動車部品の領域拡大中

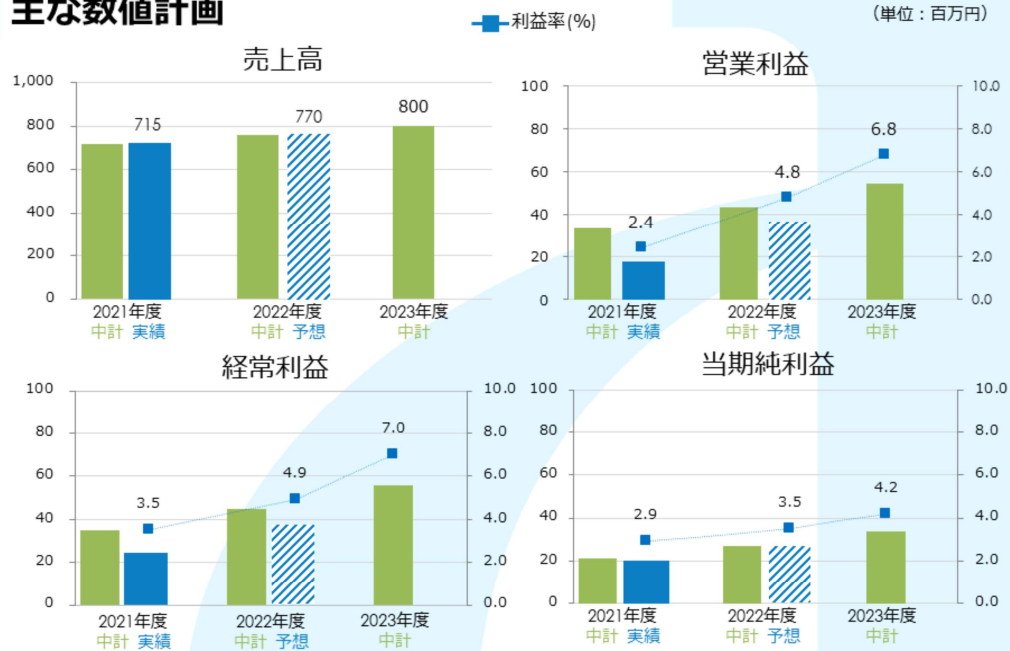
株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

一方、将来に向けた新化におきましては、  
自動車業界にけるCASE時代への変化対応として、バッテリーホールドシートが、  
トヨタ初のバッテリー電気自動車であるbZ4Xに採用されました。

このほかにも、防水・防塵・防振といったゴムの基本性能を発揮できる  
領域での要望に応じ、技術開発体制を強化することで、  
電動化への対応を更に進めてまいります。

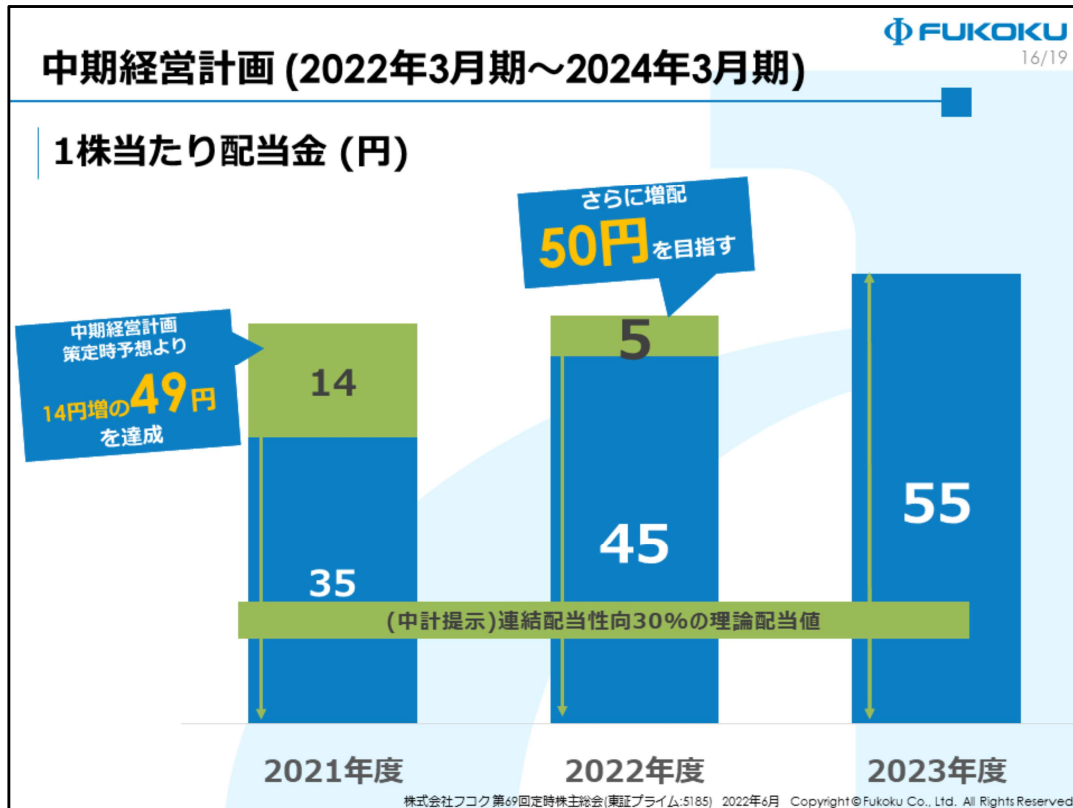
## 中期経営計画 (2022年3月期～2024年3月期)

### 主な数値計画



次に数値計画の達成状況です。

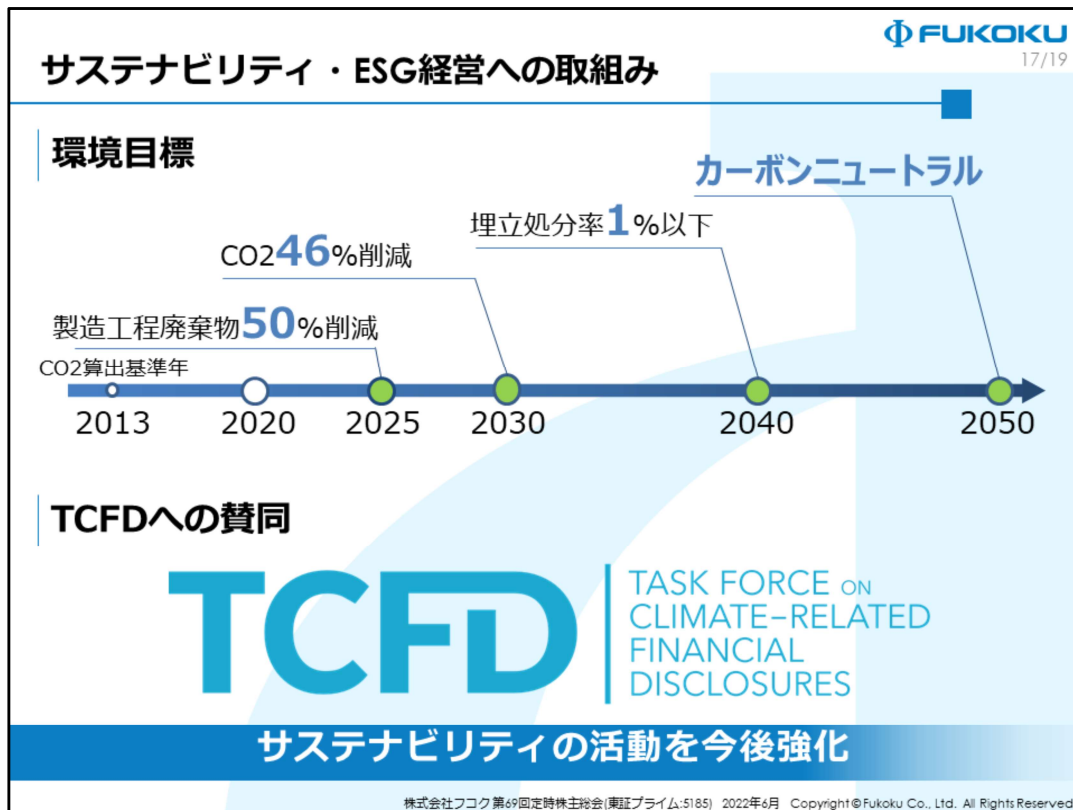
初年度である2022年3月期の実績は、中計目標と比較しますと、売上・利益ともに目標未達に終わりました。2年目である2023年3月期は、売上高はほぼ中計目標通りですが、不透明な外部環境の影響を受けまして、利益目標は目標に届いておりません。しかしながら最終年度の2024年3月期には、更なる経営基盤強化の取り組みを継続し、売上・利益ともに目標を達成したいと考えております。



続きまして、当社の1株あたり配当金についてご説明いたします。

中期経営計画等でお示しております通り、  
2021年度は49円、2022年度は50円、と増配を目指しております。  
今後も株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、  
企業価値の向上に取り組んでまいります。





次に、サステナビリティ・ESG経営への取組みといたしましては、当社は4つの環境目標を設定しました。  
 2025年度に製造工程廃棄物50%削減、  
 2030年度にはCO2排出量を2013年度比較46%削減、  
 2040年度に埋立処分率1%以下、  
 2050年度にカーボンニュートラルの目標を掲げております。

また当社は、金融安定理事会により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言に対し、賛同を表明いたしました。  
 TCFDの提言への賛同表明を機に、持続可能な社会への貢献と企業の持続的な成長のために、「サステナビリティに向けての重点課題」の一つとして、「気候変動への対応」に関する情報開示を今後積極的に行ってまいります。

上場維持基準の適合状況



基準日	流通株式時価総額	1日平均売買代金
	100億円以上	20百万円以上
2021年6月30日 (東証による移行基準日)	92.9億円	21.8百万円
2022年3月31日 (当社事業年度末)	108.4億円	47.6百万円

流通株式時価総額の継続的100億円超を目指す

株式会社フコク 第69回定時株主総会(東証プライム:5185) 2022年6月 Copyright©Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

最後になりますが、当社は本年4月よりプライム市場へ上場いたしました。

「上場維持基準の適合状況」といたしましては、昨年6月末の東証による移行基準日時点では、流通株式時価総額が基準未達の92.9億円でしたが、その後、株価の上昇や持ち合い株の解消等による流通株式数の増加をうけ、本年3月末時点での流通株式時価総額は、15億円増加の約108億円となり、基準を満たしております。

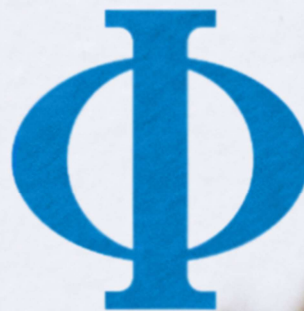
今後も、企業価値向上に努め、継続的に100億円超を目指してまいります。

# 株式会社フコク 第69回定時株主総会

## 事業報告

### ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った  
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ  
今までに無い価値を提案していきます



Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

以上で第69期事業報告を終わらせていただきます。